



[見学の山本さん\(左\)と太田さん\(右\)](#)



焼津市居場所づくり講座を受講し推進委員となった皆さんに、市内にある29(31か所中)の居場所を見学し、それぞれの活動に活かしてもらおうという見学会が、この12月から来年1月にかけて行われる事になりました。

今回は12月19日に行われたいきいき旅倶楽部の「脳活・大人のクリスマス会」を、「居場所あいあい」を11月にスタートさせた山本さんと協力者の太田さんが訪れました。

仲間の皆さんの協力により、家から持ち込んで下さった手作りのツリーや、サンタクロースなどの折り紙飾りを作られた方、又飾りつけのお手伝いなど、たくさんの支援で会場が飾られています。普段からサロンに参加している方に地域の皆さんも加わり、70名近い人たちで賑やかに始まりを待ちました。



[太鼓のようにたたいて使うペルーの楽器カホン](#)

午前の部で演奏しながら楽しい歌とお喋りで盛り上げて下さったのは、静岡福祉大学教員の二木秀幸先生とゼミ生。キーボードだけでなく、普段なかなか目にすることのないペルーのカホンという楽器や、くわえて声を出すことで音の出るカズーという楽器なども使い、フクリフクラ、たき火、見上げてごらん夜の星を、など皆さんと一緒に歌える曲を次々に笑顔いっぱい披露。歌う時のコツは笑顔で歌うこと！と、口角が上がった時の声と下がっている時の声を比較しながら分かり易い説明もして下さいました。



[参加者に寄り添いながら一緒に演奏を楽しみます](#)

後半はクリスマスソングなどたっぷり聴かせて頂き、最後はカルメンの「闘牛の歌」で、大喝采の内に楽しいショータイムが終了しました。豊かな歌声を直に聴くことができた皆さんの満足そうな笑顔が印象的でした。

午前の部が終了すると、90歳に近い方まで皆でテーブルを動かし、ホールは昼食会場に早変わり。お弁当とクリスマスに合わせて特別にショートケーキやコーヒーも付いた和やかな昼食風景が広がりました。脳トレのプリントも配られ、食後はお喋りや脳トレで過ごします。



午後の部では静岡新聞社の小笠原康晴氏から新聞記事の見方、共同通信社出向時代のお話などを聞かせて頂きました。

始めに話されたのは、新聞は20年前に比べ大幅に減少しているということ。特に若い世代の新聞離れが進んでいる為、県内の静大、県立大や焼津市の静岡福祉大などでも講座を設け、新聞に親しんで活用してもらえるよう活動しているとのことでした。

共同通信社への出向時代、それまでの事件担当から一転首相担当の政治部記者となり、そこで経験したお話やその記事の作り方、ジャーナリズムの在り方、感じてきたこと、普段聞くことのできない裏話など時間いっぱいまでお話し下さいました。皆さんからも数々の質問があり、興味深いお話いっぱい、あっという間の1時間でした。



[いきいき旅倶楽部代表の山田節子さん](#)

平成23年11月に立ち上げたこの「いきいき旅倶楽部」は、代表の山田節子さんが、50歳を過ぎてから介護を学ぶために入学した静岡福祉大で知り合った仲間とともに立ち上げ、毎月1回開催しています。

旅＝家から一歩出ることで閉じこもりを防ごうという考えを基に、介護予防につながるような試みを重ね、毎回50名程が参加するサロンになっています。仲間の皆さんの事情にも考慮し、その方に寄り添う対応も心掛けています。

「楽しい会だったね～」と笑顔で会場を出てきた山本さんと太田さんにも、刺激にあふれた参考になる事がたくさんの見学会だったと思います。

「参加されている方たちの動きぶりを見ても活気を感じられたし、楽しく活動されている様子が伝わってきた。それにはリードされている方たちのお人柄もあるように思えた。自分たちがするのは近くに住む人を対象にした居場所だけれど、こういう集いは外に足が向かない人が足を運ぶきっかけにもなるので、これからも続けてほしい。」と感想を話して下さいました。

多くの仲間を巻き込みながら、息の長い居場所づくりの為にそれぞれのグループが横にもつながり、協力し合えていけたら素晴らしいと思えた見学会でした。

志太榛北地区担当特派員 増田昌江